

波音

なみおと



清水海岸だより 第6号(H20.4)



第6号の内容

- 特集：清水海岸三保の松原周辺景観検討会の概要
- 清水海岸事業ファイル⑥：新工法紹介『サンドリサイクル』

PHOTO：窪田 敏

三保の自然を題材にした絵画シリーズ(4)

『富士／五姓田義松』 静岡県立美術館収蔵品

ごせだよしまつ
五姓田義松(1855～1915)は、江戸に生まれる。慶応元年にワーグマンに洋画を学ぶ。明治九年に工部美術学校に入学、フォンタネージに師事。明治十三年に渡仏し官展派の大家レオン・ボナに師事。日本人初のサロン入選を果たした。帰国後は、明治美術会の結成に参加。(静岡県立美術館図録「富士山の絵画」より抜粋)



油彩 1905年作。日本平東麓より三保松原、駿河湾をとおして富士を遠望した図。左端あたりに清水港、その沖に蒸気船が見え、湾内には白帆をあげた舟が多く浮かんでいる。横長の構図はバランス良くまとめられ、巧みな空気遠近法による奥行き表現にも高い技術がみられる。田畑や潮目の表現も的確で破綻がない。

特集 清水海岸三保の松原周辺景観検討会の概要

清水海岸の羽衣の松周辺は、「名勝三保の松原」として大正11年に国の天然記念物に指定されています。特に、鎌ヶ崎から富士山と駿河湾を望む白砂青松の景色は、新日本三景にも数えられ地元住民はもとより、多くの来訪者に大きな感動を与えてきました。

しかしながら、三保の松原周辺の海岸においては、平成元年から侵食対策として、突堤や消波ブロック等の整備が進み、自然の良好な景観に影響を及ぼしています。

このため、景観に関する学識経験者や良好な景観維持を熱望する地域住民等で構成する景観検討会（12名で構成）を開催し、今後の海岸保全施設の整備において、富士山や駿河湾を借景とした良好な海岸の自然風景を維持・回復する方策を、2回にわたって検討してきました。その結果の記録を掲載します。

〈第1回検討会〉

- 日時：平成20年2月14日
- 会場：①現地（羽衣の松周辺） ②三保公民館
- 検討会の内容
 - ・羽衣の松周辺約1.2kmを現地踏査して状況を把握
 - ・景観ビューポイントの選定及び課題の抽出作業を実施

〈第2回検討会〉

- 日時：平成20年3月18日
- 会場：三保公民館
- 検討会の内容
 - ・景観整備方針及び方策の検討作業を実施



● 現地視察の様子



● 検討会の様子

三保の松原のうち羽衣の松周辺については、現在の状況と富士山景観等に配慮した海岸整備を実施した場合の状況（長期的整備約20～50年後）を比べるために、合成写真(フォトモンタージュ)を作成して比較対照してみました。

〈現在の姿〉



①清水海岸(羽衣の松西側600m付近)の現在



②清水海岸(羽衣の松付近)の現在



③清水海岸(鎌ヶ崎付近)の現在

〈将来の姿(フォトモンタージュ)〉



①清水海岸(羽衣の松の西側600m付近)の将来



②清水海岸(羽衣の松付近)の将来



③清水海岸(鎌ヶ崎付近)の将来

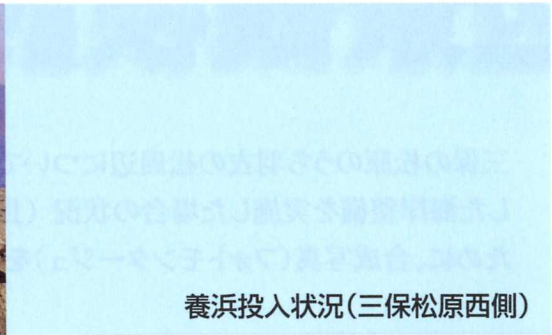


新工法紹介

【サンドリサイクル】



土砂採取状況(三保飛行場前)



養浜投入状況(三保松原西側)



サンドリサイクルは、安倍川から流れてきた漂砂(土砂)の終点となる三保飛行場付近から、余剰堆積土砂を養浜に活用(再利用)し、安倍川からダンプで土砂運搬するサンドバイパスよりも、運搬距離を約10Km短縮することによりコスト縮減を図る工法です。



お問合せ、ご意見はこちらまで

静岡県静岡土木事務所 清水支所
静岡市清水区日の出町 9-25 (〒424-0922)
TEL 054-353-2212 FAX 054-354-1873

◇静岡県静岡土木事務所 清水支所 発行◇